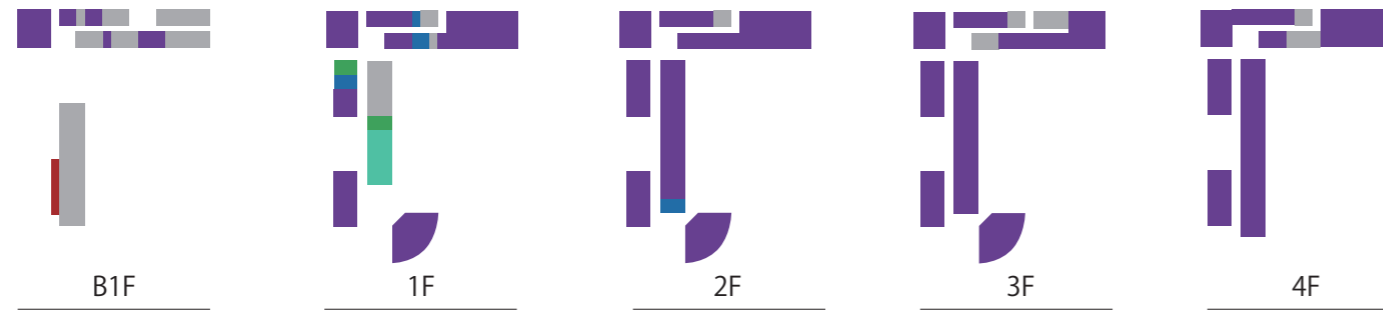
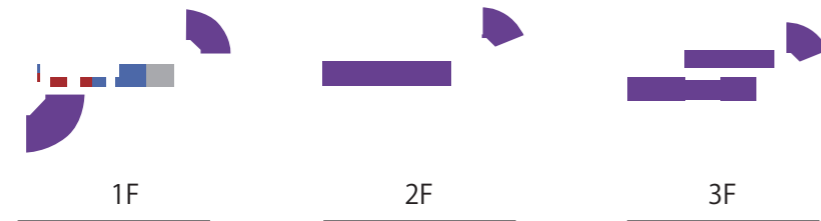


総合教育棟



人間社会
第1講義棟



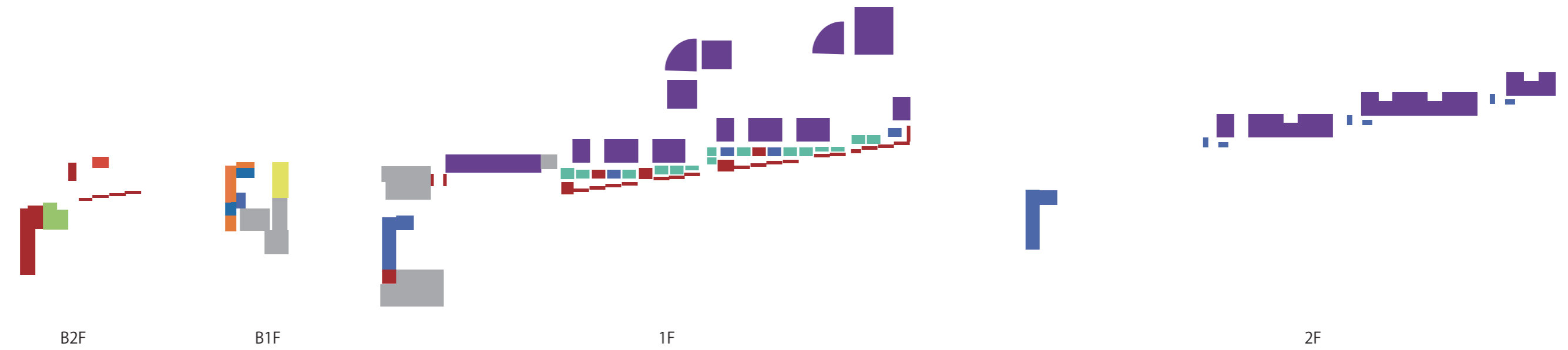
人間社会
第2講義棟



中央図書館



自然科学
研究棟



<分析>

- ・動線の要となる場所であったり、当初エントランスとして多くの交通量に耐えうる場所がタッチダウンスペースとして家具等が配置されている。
- ・従来の受動的学習のために計画されたキャンパスにおいて、アクティブラーニングに必要な学習環境の場が少ないことが確認できる。
- ・大学のカリキュラム上、授業間でのキャンパスの過ごし方が重要であること、上記の結果からタッチダウンスペースの必要性がある。
- ・一方で、タッチダウンスペースとなる場所が明らかに少ないことが確認できた。
- ・小さなタッチダウンスペースになり得る場所が有効活用されていないことが確認できた。

<提言>

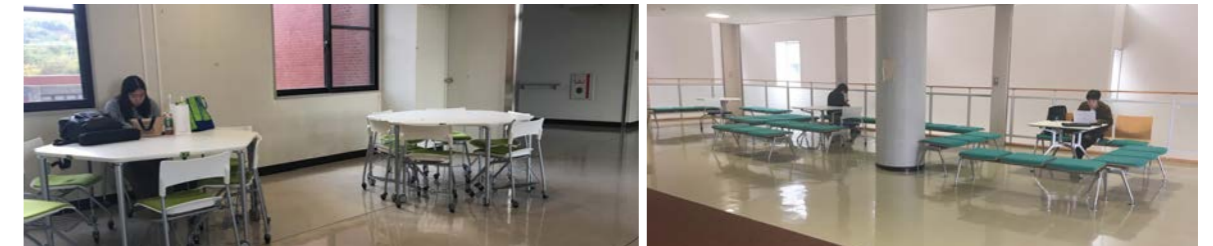
- ・既存のタッチダウンスペースの改修は難しいため有効活用され得る小さなタッチダウンスペースを各所に設けることで、動線を短く授業間の学習効率をあげることが可能と考える。

●講義室の割合に対して、少ないタッチダウンスペース



タッチダウンスペースの必要性が確認できた。特に総合教育棟エントランスの利用率は高く飽和状態である

●家具を置かれているだけの状態に近い小さなタッチダウンスペース



動線上や講義室の近くになら利用率が低いタッチダウンスペースを有効活用する必要がある